

2022年(令和4年)12月13日(火曜日) (26)

八工大 台湾と共同研究

大学、研究機関と覚書締結

八戸工業大(坂本禎智学長)は12日、台湾の大学や研究開発機関と人事交流や共同研究を進める覚書を締結した。持続可能な開発目標(SDGs)や、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルなどの国際的な課題について、共同のプロジェクトを掲げて取り組む方針だ。八工大と覚書を結んだのは台湾の国立高雄科技大、財団法人金属工業研究发展中心、高雄科技大(高雄市)は台湾最大の理工系大学。工学部など9学部で約2万



台湾の大学、研究機関と覚書を結んだ坂本禎智学長(右から2人目)=12日、台湾の高雄市(青森県提供)

人の学生が在籍し、日本を含む海外の大学と多くの連携実績がある。金属工業発展中心は同市に本部を置く研究開発機関。金属加工を中心に、医療機器やエネルギーなど幅広い分野で研究開発や企業支援を行っている。八工大の担当者によると青森県が台湾と交流してきた実績もあり、連携の話が持ち上がった。覚書は2020年に締結予定だったが、新型コロナウイルスの影響で延期となっていた。12日、高雄科技大で開か

れた締結式には、坂本学長と三村申吾県知事、高雄科技大の楊慶煜学長、金属工業研究发展中心の林仁益董事長が出席。三村知事が立会人となり、覚書に3氏が署名した。坂本学長は「両国の知的資源、財産の融合につながり、新たなアイデアの創出に結び付くと期待している」と意義を強調した。連携は両大学生の2週間程度の短期交換留学や1年程度の長期研修、八戸市での国際シンポジウム開催や共同研究の実施などが検討されている。(林泰輔)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。